

Obukuro Nariaki interview

時代や国境を超越して聴き継がれていく、日本産の現在進行形サウンドを紹介する〈未来ノ和モノ-JAPANESE FUTURE GROOVE〉。今回ご紹介するのは、宇多田ヒカルのプロデュースのもと日本／海外という枠組みでは括れない個性を放つファースト・アルバム『分離派の夏』をドロップした小袋成彬。彼に〈未来ノ和モノ〉という視点から話を聞いた。

——『分離派の夏』で日本や世界のリスナーに聴いてもらいたい点は？

「僕は個人的な体験を音楽にしているだけなので、特にありません。最近はいくつかのメロディーがあり、イントロが短い方が何回も再生されて海外でバズる。そのため短い曲を書く」というアーティストもいます。そういう作品にもときどき素晴らしいものがありますが、僕はその競争に乗る気はないんです」

——日本と海外の音楽を比べて感じることは？

「僕はその作品がどんな想いで作られたかということにしか興味がないので、比べないですね。ただ、日本には俳句という文化があるように、ゆとりや間、ふくよかさや曖昧さを大事にしますよね。僕はそこに美しさがあると思います。だから、音節のある英語のようなグルーヴを日本語の詞で作るのは難しい。〈スタジオでセッションする〉という文化も日本にはあまりないですね。なので、最近はい向きのものの方が日本的なのかなと感じることがあります」

——そんななか、音楽家としてどんな立ち位置でいたいのでしょうか？

「日本人であるという自覚はありますが、僕はそれを取り払うのが重要だと思っています。社会にアイデンティティを求めたら敵が増えるだけです。そのぶん、これまで経験してきたことに拠って立ちたい。そうすることで、国とか肌の色とかはどうでもよくなると思うんですよ。だから、〈どういう立ち位置でいたい〉という考えもゼロですね」

——最近はい「非黒人による黒人音楽は文化搾取」という言説もあります。

「その考えが正しいか正しくないかはわかりませんが、好きではないです。それは僕の考え方とは違う。だったら、日本人は尺八持って太鼓叩けばいいのでしょうか。でも僕らはMIDIがあるので最強ですね」

Obukuro's Choice



The Flaming Lips
The Soft Bulletin



Stardust Revue
Stardust Revue



Bon Iver
22. A Million



スキマスイッチ
タ風ブレンド



Vampire Weekend
Modern Vampires of the City



Frank Ocean / Channel Orange



Various Artists
Factory Records: Communications 1978-92



折坂悠太
たむけ



Antony & The Johnsons
The Crying Light



Zack Villere
Little World



そのサウンドは、機能性を損なわずに時代を超越する。
そのサウンドは、新たな機能性を見出され時代を超越する。
20年後、30年後、世界中の音楽ディガーに発見され、興奮し、語り継がれる日本の音楽。
フロアを揺らす音楽。決して消費される事のない音楽。音楽はタイムマシン。
盤は回り、そのサウンドは未来へと繋がって行く。



小袋成彬 分離派の夏

小袋成彬。これが新時代のスタンダード

長寿番組の終焉。大物アーティストの解散・引退。平成から、新たな時代に突入しようとしている今。間違いなく「分離派の夏」以前以降でシーンが語られるであろう、そんな傑作がいよいよ誕生した。固定観念を吹き飛ばす挑戦的なサウンドデザイン、そして文藝の薫り高き歌詞。サウンドプロデューサーである小袋成彬が、宇多田ヒカルをプロデューサーに迎えソロアーティストデビューを果たした今作は、まさに天才同士のハイブリッドの結晶！

4/25発売

Nulbarich GUESS WHO?



リリック、歌声、サウンド、メロディーが絶妙

代表曲「NEW ERA」、1970年代のファンクがインスパイアされたナンバー“Lipstick”など、ソウル・ファンク・アシッドジャズといったブラックミュージックをベースにポップスやロックなどの要素も取り入れた全10曲を収録。

好評発売中

STUTS Pushin'



MPCを叩くことで生み出される独特のグルーヴ

MPC奏者STUTSのデビューアルバム。CampanellaとKID FRESINOの煙たいラップが絡む“Furious”、PUNPEEを迎えた哀愁度全開のキラーチューン“夜を使いはたして”など、グルーヴィー&ファンキーな中に甘美で切ない空気感を共存させるセンスに脱帽の一枚。

好評発売中

水曜日のカンパネラ ジバンギ



ユーラシア周辺の時代と領域がテーマ

ご当地ワード炸裂の“シャクシャイン”で北海道から出発。キラキラの“メデューサ”、スパイシーな“ラー”、攻めたトラックの“ウランちゃん”、締めくくりにふさわしい“マッチ売りの少女”など、オリエンタルなムード漂う楽曲でアジア・ユーラシアを巡って、再び日本に辿りつく流れも秀逸な一枚。

好評発売中

PUNPEE MODERN TIMES



長年に渡って待ち望まれていたソロアルバム

代表曲かつ名曲“Renaissance”含む全16トラック。冒頭のナレーションからわかる<2057年の自身が40年前に発表した初作を振り返る回想録>というコンセプトを踏まえて聴くと、まだ見ぬ未来に思いを馳せつつ<今>こそが未来へつながっているタイムトラベルなさがな一枚。

好評発売中

Suchmos THE BAY



<よい音楽>を追求し、時代を超える

横浜、茅ヶ崎出身の5人組ミクスチャーバンド、Suchmosの1stフルアルバム。ロック、ソウル、ジャズ、ヒップホップからの影響をバンドに落としこみ、クールでモダンな高い演奏技術で話題。アーバンでメロウなソウルファンクを感じる12曲。

好評発売中

ベトロールズ Renaissance



結成10年目にしてリリースの1stアルバム

ギター、ベース、ドラム、そして人の声だけを使い、トリオでやってるバンドの醍醐味をフルに生かした楽曲達。過剰な装飾のない音ながらも、溢れ出るリズムとグルーヴや独創性のない歌メロが合わさって生まれるのはベトロールズらしい11曲。

好評発売中